

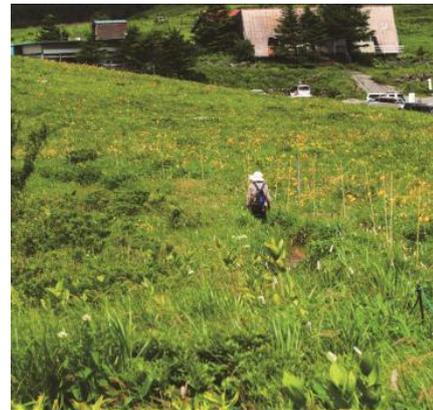
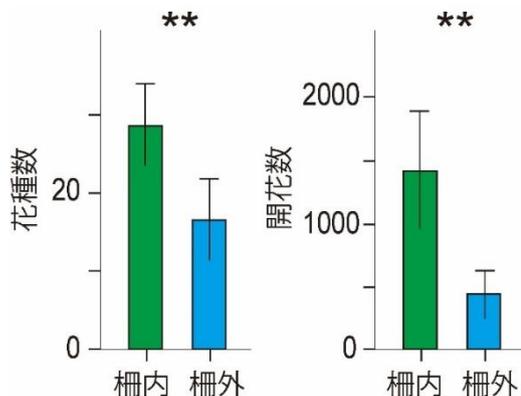


霧ヶ峰で防鹿柵によるお花畑の保全が植物多様性の保全に役立っていることが分かりました

東京大学、森林総合研究所、兵庫県立大学自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館、神奈川大学、長野県環境保全研究所の研究グループは、霧ヶ峰での調査から、シカの侵入を防ぐ柵（防鹿柵）の設置が、草原内の植物多様性の保全に貢献していることを明らかにしました。本成果は8月25日付で国際科学誌「Biological Conservation」に掲載されます。

【研究の概要】

- 長野県霧ヶ峰において、防鹿柵により観光資源として有用なニッコウキスゲのお花畑を保全することが、植物多様性の保全に貢献していることを、開花数や種数を調査することにより明らかにしました。
- 一方で、ニッコウキスゲのお花畑の保全のみでは、季節性や花色などを考慮した植物の機能的多様性を十分に保全できていないことも示唆されたことから、オミナエシなどを指標として防鹿柵を設置するなど追加の施策を提案しました。
- 保全する対象について、違った観点からの施策を追加することで、さらなる保全効果を生み出すことが出来ると期待されます。



グラフ：防鹿柵内（緑色）と柵外（青色）における開花植物の種数と開花数の比較。防鹿柵の内側では、柵外よりも開花数が3倍ほど多い。図上部の**は、柵内外で統計的に有意な差があることを示す。写真：ハイカーの右側（柵内）にはニッコウキスゲ（黄色花）が咲いているが、左側（柵外）にはほとんど咲いていない

本研究の一部は、公益財団法人自然保護助成基金第28期（2017年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成による支援を受けて実施されました。



世界を変えるための17の目標



【長野県は「SDGs 未来都市」です】

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）
（次長）渡辺昭生（担当）尾関雅章
TEL 026-239-1031（代表）
FAX 026-239-2929
E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 総務係
（課長）真関 隆（担当）戸谷亮太
TEL 026-235-7171（直通）
026-232-0111（代表）内線 2714
FAX 026-235-7491
E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp